

## 2011 年度 小委員会活動成果報告

(2012 年 1 月 10 日作成)

小委員会名	構造設計における冗長性と性能最適化小委員会		主 査 名：竹脇 出 就任年月：2009 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 応用力学運営委員会		委員長名：中島正愛 主 査 名：高田毅士
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	建築構造設計に関わる冗長性の概念の分析とモデル化および定量化、さらには、性能最適化された構造物とリダンダンシーを重視した設計の関係等について調査・研究を行う。 ・2009・2010：リダンダンシー・性能最適化などの概念に関する調査研究 ・2011：大会 PD 開催 ・2012：応用力学シリーズ刊行に向け脱稿（2013 公表）		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無		
	主査：竹脇 出（京都大） 幹事：高田豊文（滋賀県立大）・山川 誠（京都大） 委員：浅岡泰彦（大林組）・朝川 剛（日建設計）・磯部大吾郎（筑波大学）・伊藤拓海（東京理科大学）・寒野善博（東京大）・曾我部博之（愛知工大）・趙 衍剛（神奈川大学）・福田隆介（鹿島建設）・中村尚弘（竹中工務店）		
設置 WG (WG 名：目的)			
2011 年度予算	70,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回（年度内計画を含む）
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	1. PD：ロバスト性・冗長性を向上させた建物の構造デザイン 参加者数 166 名 『構造部門（応用力学）パネルディスカッション資料：同上』
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 応用力学シリーズの刊行に向け本格的な議論に入り、format および全 12 章の原案を作成した。今後、応用力学運営委員会および構造委員会の査読に進む予定。ほぼ予定通りの成果を得つつある。 2. 大会 PD において小委員会の活動成果の一部を公表。 3. 2011 年度日本建築学会技術部門設計競技「ロバスト性・冗長性を向上させた建物の構造デザイン」を支援。
委員会活動の問題点・課題	1. 冗長性・ロバスト性についての用語の整理をさらに進めたい。 2. 応用力学シリーズの刊行に向け、各章間の関係についてさらに検討を進めたい。